

2011年10月13日

日本空港ビルディング株式会社
NPO 法人映像情報士協会（復興支援メディア隊）

「未来への教科書 写真展 in 羽田空港」のご案内

日本空港ビルディング株式会社とNPO法人映像情報士協会は、2011年10月17日から12月26日まで「未来への教科書 写真展in羽田空港」を開催いたします。

東日本大震災の被災地の小中学校、避難施設等と連携し、被災地の小中学生自身がプロカメラマンの協力も得ながら“復興に向けた希望の象徴”となるモチーフを選んで写真を撮影し、これらの写真を中心に構成した「未来への教科書」を制作する活動を行っています。既に200名を超える小中学生が「復興支援メディア隊」のメンバーとして現地で活動しています。

本活動の一環として、この半年間で蓄積された写真を、全国49都市と結ばれている羽田空港国内線旅客ターミナルから復興の想いを各地へ発信していきます。

開催概要

開催期間：2011年10月17日（月）～2011年12月26日（月）

展示枚数：約300作品

展示場所：羽田空港国内線

第1旅客ターミナル（1階到着ロビー 手荷物受取場内）

第2旅客ターミナル（1階到着ロビー 手荷物受取場内）

（2階出発ゲートラウンジ内65番搭乗口前）

（別紙展示エリア図面参照）

* 展示閲覧は無料です。

* セキュリティエリアでの開催のため、一部を除き飛行機のご搭乗者以外は閲覧できません。

開催体制

主催：日本空港ビルディング株式会社、NPO 法人映像情報士協会（復興支援メディア隊）

協賛：日本IBM株式会社、アクセンチュア株式会社、ジャパンマテリアル株式会社、

水上印刷株式会社、日本工学院専門学校／東京工科大学、

パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社、

学校法人ミスパリ学園（順不同）

支援：CIPA フォトエイド、公益財団法人 稲盛財団

協力：キヤノン株式会社、株式会社ニコン、富士フイルム株式会社、

日本映画大学・日本映画学校（順不同）

お問い合わせ先

○写真展について

NPO 法人映像情報士協会

<http://www.apvi-npo.org/>

復興支援メディア隊

<http://ramediateam.org/>

連絡先（担当：榎田）

Email : tomoko@ev-pj.com

○展示会場について

日本空港ビルデング株式会社 事業開発・運営本部 事業企画部 事業企画課

連絡先（担当：大坪）

TEL : 03-5757-8075、FAX : 03-5757-8235

E-mail : t-otsubo@jat-co.com

展示写真例



絶望に向い、**希望**を拾う。

2011. 4.13

釜石東中学校付近の道路。生徒が数人いたので声をかける。
学校を見に行くという。子どもたちは自分のモノをみつけないという。

大胆で、そして丁寧な仕事を**習う**。

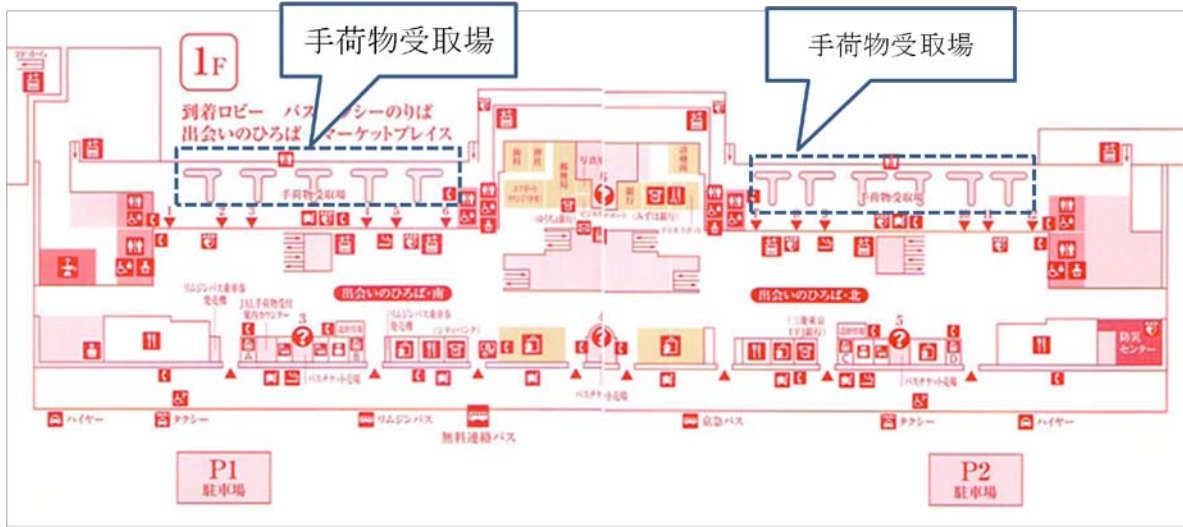
I'm bold and **learn** polite work.



展示エリア

第1 旅客ターミナル

1階 到着ロビー 手荷物受取場



※手荷物受取場は保安区域内となるため、一部を除き到着されるお客さま以外は閲覧できません。

第2 旅客ターミナル

1階 到着ロビー 手荷物受取場

2階 出発ゲートラウンジ内65番搭乗口前

1F 到着ロビー



※手荷物受取場は保安区域内となるため、一部を除き到着されるお客さま以外は閲覧できません。

2F 出発ロビー



※ゲートラウンジは保安区域内となるため、出発されるお客さま以外は閲覧できません。

*復興支援メディア隊とは？

趣旨

東日本大震災後、東北地方をはじめとする被災地等において、復旧・復興の過程で発見した日本人の素晴らしさや強みを象徴する物語が生まれています。未曾有の大震災だったからこそ、これまでにない最強のコンテンツ・物語が生まれようとしています。

例えば「震災発生から3日間で復旧する道路」、「被災者の方々が互いに助け合いながら立ち上がっていく姿」、「被災した工場を早期に復旧していく従業員や経営者の姿」などの事実が至るところにあり、被災地の子ども達は、震災に遭遇した中で、様々なことを感じ、考え、行動しています。しかし、今、彼らは「メディア側の一方的な取材」の対象にとどまっています。こうした中、被災地の子どもたち自身が、写真や文字を通じて想いを発信する機会を作ることは、「彼ら自身が気持ちを整理し、想いを新たにし、明日に向けて歩き始める」後押しとなります。

活動目的：

1. 被災地および被災者の中長期的な支援
2. 風評対策コンテンツ制作支援

活動内容：

1. 復興の様子を取材・配信。情報制作配信の専門家である映像情報士を現場に派遣し、現地行政や民間団体、企業、市町村等の情報の収集・整理・配信のサポートを行うとともに、直接、被災地および近隣支援地の活動の情報化(映像や写真、文字による記録)を行います。

*6/11(土)27 時より、BS12 にて 隔週放送中。(60 分番組)

<http://www.twellv.co.jp/program/documentary/>

2. 被災者自らが写真を使い、復興の様子を配信する事をお手伝いし、ウェブ上での配信および写真展やメディアアートの祭典として発信。キヤノン株式会社様、株式会社ニコン様、株式会社リコー様ほかからご提供いただいたデジタルカメラを被災地の人達に渡し、復興の様子を記録していただきます。撮影や配信方法等のワークショップも織り交ぜながら、自ら情報発信をしていただきます。

3. 「未来の教科書プロジェクト」「秩序ある復興体制」等、子どもたちや未来に伝えるべき遺言としてアーカイブ化を進めています。(写真集、書籍、映像等)

活動の特長：

1. 被災地のキーパーソンたちとのネットワークを利用し、復興支援メディア隊メンバーになってもらっている。
2. プロフェッショナルとアマチュアが連携することで、独自の情報発信をしている。
3. 現地でしか知り得ない生の情報を全国、世界に発信する機能を持っている。

具体的に何が起きているか？（効果）

1. 何が困っているのか？というような具体的な状況を把握できる。
2. それを提供出来る人とリンクさせることができる。
3. 震災以降見えてきた日本の底力と言うべきものを可視化している。

設立経緯：

今回の大震災は、被災された方のみならず日本全体に大きな被害を及ぼす大惨事となっています。しかし一方、震災後、被災地やその近隣支援地はもとより、日本中から助け合いの動きが起こり、世界中が注目し矚目する「秩序ある復興体制」が成立し粛々と運行されているのも事実です。

ところが、原発事故から端を発した「風評被害」は深刻であり、中長期的に観た被災者の復興を支援する情報も整理して提供されているとは言いがたい状況です。この事態を鑑みて我々NPO法人映像情報士協会は「復興支援メディア隊」を創設し、被災者及び日本の未来に寄与することを決定しました。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

体制：

運営母体：復興支援メディア隊（事務局：NPO法人映像情報士協会）

代表者紹介：**榎田竜路（えのきだ りゅうじ）**

復興支援メディア隊 代表、NPO法人映像情報士協会理事長

北京電影学院ニューメディアアート科客員教授

同学院青島クリエイティブメディア学院客員教授、IDAprojects 日本代表

内閣府地域活性化伝道師